

山の日

今年より祝日が1日増えて、8月11日は「山の日」というお休みになりました。祝日の趣旨は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ということだそうです。そこで今回は山の日になみなみ、大阪近郊で山に親しみつつ、かつ天文にも親しめる場所を紹介したいと思います。

諏訪山・金星台

神戸・元町から北に1kmほど行ったところに、諏訪山公園があります。山と言っても、標高わずか150mほどしかありません。ここに、金星台という展望台があります。

明治7年12月、「金星の太陽面通過」という現象が起きました。これは、ちょうど太陽—金星—地球が一直線に並ぶことで、金星が太陽の表面を横切る様子が見えるというものです。非常に稀な現象で、100年に2回ほどしか起きません。

この現象を観測するため、欧米各国の観測隊が来日して、長崎、神戸、横浜で観測を行いました。神戸ではフランス人天文学者ジャンセンがこの地で観測を行ったことから記念碑が建てられて、展望台は現在、金星台と呼ばれています。

金星台から少し登ったところには、夜景スポットとして有名なビーナスブリッジがあります。この橋の名前も、金星に由来したものになっています。

その先は山道になりますが、碓山・市章山辺りまで往復すると、ちょっとしたハイキングコースになります。



図1. 金星観測記念碑

摩耶山・掬星台

同じく神戸・摩耶山の山頂近くにある展望台です。「星を手で掬えるほどの夜景」から名付けられたと言うことで、日本三大夜景の1つにも挙げられています。

標高は700mほどで、ケーブルカー・ロープウェイで山頂まで行くことができます。登山道も整備されており、数時間かかりますが、昼間なら徒歩で登ることができます。



図2. 掬星台からの風景

天香具山・天岩戸神社

奈良の橿原市にある山で、畝傍山、耳成山とともに大和三山と呼ばれます。百人一首の持統天皇の歌「春過ぎて夏来にけらし白妙の衣干すてふ天の香具山」でも大変有名です。こちら山と言いながら、標高は150mほどしかありませんので、登山口からだと10分ほどで山頂に着いてしまいます。



図3. 天岩戸神社

天香具山のふもとに、天岩戸神社があります。「古事記」「日本書紀」の神話に、天照大御神が、須佐之男命の狼藉に怒って天岩戸の洞窟に隠れたという、天岩戸神話があります。この神社は天岩戸神話の舞台になっており、拝殿の裏側には4つの巨石が岩穴を形作っています。同名の神社は宮崎県の高千穂にあるものが有名で、こちらは高千穂に比べると、かなり規模の小さな神社です。

この天岩戸神話は、皆既日食を意味しているという説があります。かつて皆既日食を目撃した古代の人々の記憶が、天岩戸神話となって残っているということです。実際、卑弥呼の時代の紀元247年、および248年に皆既日食がありました。これが天岩戸神話のもとになっているとすれば非常に魅力的な説ですが、長い間に地球の自転にほんのわずかの遅れが生じるため、この時の日食がどこで起きたのか、正確な場所は特定できていません。残念ながら地球の自転の遅れの研究からは、この日食が近畿や九州で皆既日食となった可能性は低く、卑弥呼の時代の皆既日食は、天岩戸神話の日食ではないと考えられています。

また、天香具山から2kmほど南に行ったところ、甘樫丘近くに、飛鳥水落遺跡があります。これは飛鳥時代、中大兄皇子が初めて作った日本最古の水時計(漏刻)の跡とされています。古代の天文台、と言っていってもいいかもしれません。

(番外編) 鞍馬山・魔王殿

鞍馬天狗で有名な、京都・鞍馬寺にある建物です。本殿の先、源義経が剣術を学んだという木の根道を越えてさらに進むと、奥の院・魔王殿があります。ここは何と、650万年前に金星から護法魔王尊が地球に降り立った場所とされています。

山門からは1時間ほどかかる所にあり、どちらかというとき船神社のある鞍馬西門から行った方が近くなります。



図4. 魔王殿

江越 航 (科学館学芸員)